

# 「ねだりのつらさ」を手がかりにした自他理解

## フィールドでわかる

作道 信介

私は1993年からケニア西北部のトゥルカナという牧畜民のところで、病気や占いについて調査をしています。といっても今日はその話ではなく、むしろそのフィールドワークでの欠かせない現象、私とトゥルカナの人たちとのあいだでどのようなことが起こっているのかを話してみたいとおもいます。

そこではひじょうにねだりが激しいわけです。調査はトゥルカナ人たちのねだりのなかでおこなわれています。それはしんどい、つらい体験です。時には調査の妨げにもなるのではないかと、思うほどです。そのねだりの話ですが、彼らがどういう風にねだりをしているのか、それに対して私がどのようなことを思ったのか、そして時間があればねだり対策についても若干触れたいと思います。

### ねだり続ける

ねだりがどのように行なわれるかという、朝6時ぐらいに起きたらすぐ始まります。朝テーブルにお茶を乗せていると、まわりに人が集まってきます。とにかくずっとねだりをしにくるわけです。家畜が死んだとか病気だとか、困ったときにきます。しばらくそれに対応していて一段落しますと、お金やモノを家からとってきて、彼らに渡します。人垣が二重三重になっていますから、うしろの人はねだるチャンスが少ないため、動く瞬間を狙ってスーッとみんながついてきます。

ねだりは個人でくることが多いのですが集団でくることがあります。そしてヒツジを出せ、という話になるわけです。女性は踊りながらくともあり楽しそうですが、こちらは暗澹とした気分になります。8月12日に80分間、机の上にビデオを置きっぱなしにしておいたのですが、このあ

いだに18人からのねだりを受けて、約2万円の要求を受けて、そのうち7400円を支払っているということになります。

ねだりの一部ですが、どのように行なわれているのかというと（下図参照）、白い丸と黒い丸で約束をしたというワンセッションです。三角形は、先ほどいったような人垣から「私の番はいつ」とか「おれはここにいるぞ」といった声がかかったことを意味しています。バツは私が拒否したということです。これは5分ごとの時間軸でとっており、右側に流れています。いちばん左の最初の10分をあらわしている列をみますと、交渉の合間でいろいろな声がかかってきて、私が断ったりしている。そして網かけのところで私が立ち上がり、お金をあげましょう、ということになる。これが切れ目なくずっと続きます。

これがどういう形でおこなわれているかというと、いろいろなことを思うわけです。私も調査

朝：80分間のねだり（その一部）

人	経過時間				
	～10分	15分	20分	25分	30分
D	△				
E	○●済み				
F	△×				
G					
H	△				
I		○●	○●		
J		△			
K		△	△		
L				△	
M				○	×

○開始 ●終了 △声かけ ×拒否 済み：支払い

に入る前に文化相対主義ということばを勉強しておりますから、それぞれの文化は尊重しなければいけないし固有のものがあり、相手のところに行ったら相手に従わなければいけない、ということはおわっているわけです。しかしいろいろなことを思うわけです。まず、

「なんであげなきゃいけないんだ」

と。根拠は友だちだから当然くれるだろう、ということです。またお金をあげていると気になることに、

「本当に必要だったのか」

とか、

「本当にちゃんと使っているのか」

といったことがあります。病院に行くから金が必要だ、と言った人間が町に行き酒を飲んでケンカしている、といったことがしょっちゅうあるわけです。そういう目的外使用と役割不履行がとも気になるわけです。そういうなかで自分がすぐくち臭い人間になっていくわけです。

あとと思うことは、「ナニナニしすぎ」ではないかということです。向こうがねだりすぎじゃないか、とか、自分はあげすぎじゃったんじゃないか、といったことです。それはある自己コントロール感が欲しいのだと思います。向こうの人はふつうにねだってくるのですが、こちらの心のなかはどろどろといった感じのフィールドワークになるわけです。フィールドワークになにかを期待している人がいると非常にいけないプレゼンになっている、ということを実感しています。

## ねだりの現場

ここでエオイという一人の青年に登場してもらって、どんなねだりをやっているかというのを、日本語のナレーションで聞いてください。

エオイは私のキャンプの近くに住む、おともだちの青年です。昨年父を亡くして、牧畜管理や家族の扶助は彼の仕事となっています。母は精神的な病いをわずらっており、ダンスと歌で治す治療者ナブーンにかかっています。すでに、私は300シル（約600円）を援助しています。私は、トゥルカナでは、発音のしやすさから、ソコミチとよばれています。

### 【関係の設定】

私：おまえは、ソコミチがあげた300シルを、ナ

ブーンがもっていったというのだな？

エオイ：そうだ。ナブーンが持っていったお金については何の問題もない。ナブーンは母をよく治療してくれた。だから、悪い感情はもっていない。私の家のものはおなかをすかせている。しかも、ひどくすかせている。だから、私はあなたにお願いするのだ。

私：いくら欲しいのか。

エオイ：ソコミチ、おまえが私の友だちなら、私に1000シルをくれないか、そうすれば、ぼろぼろになったものを新しいものにできて助かるし、油や食べ物を買って家の人を助けることもできる。

私：だから、私は300シルをあげてあなたを助けたではないか。私には1000シルなんて大金をあげることはできない。

### 【話をそらす/もどす】

私：（ところで）あなたのおかあさんは、またナブーンの家に戻るのか。

エオイ：戻るだろう。

私：何日家に残っているのか。

エオイ：ナブーンがいうには、彼女を自宅で10日過ごさせて、あなたは彼女をまた連れてきなさいと。母をナブーン宅に戻す日になったら、母はここに来るだろう。そして、おまえは母を車で送る、母は車で送られる。

### 【問題の限定/問題全体】

私：ソコミチ自身、お金の問題をかかえている。それで1000シルを払えない。

エオイ：800シルをくれと。それで、私は500シルで油を買い、300シルを家の奥さんたちに分け与える。家には奥さんたちがたくさんいる。

私：200シルならなんとか。

エオイ：ソコミチ、私は、飢えについて多くの問題を持っている。私はあなたにお願いする。というのは、私の家の人々も多くの問題を抱えている。それに、私の家畜は尽きたし、難民は残った家畜を持っていった。それには、私が母の治療に使うヤギも含まれていた。さらに今日になって別の問題が持ち上がった。問題はここにやってきて私と冗談を交わした人物（乗客）に関することだ。それにあなたが、今日見たように、ナブーンはもう二頭のヤギをもってくるように言っている。だから、お願いだから助けてくれ、家の人々は飢えている。私は家の者に与

えるものをもっていない。家畜は遠くに行っていない。

私：1人の訴えをみな満たすことはできない。いま、ソコミチはあなたに200シルならなんとか与えようとしている。

エオイ：私をしてそうさせているのは、私が持っている問題についてであり、それで私は泣いている（このように叫んでいるのだ）。

#### 【援助の限定/まるごと援助】

私：あなたが言ったお金はあまりに大きい金額だ。その金額は私が払うにはまだ大きすぎる。

エオイ：私は問題を小分けにしよう。おまえは、私の友だちだし、私に100シルを取り除かせてくれ。700シルを私にくれ。ソコミチは私の友だちだから。

私：300シルを出す。

エオイ：ソコミチ、300シルは十分ではない。私の家の人は6人だ。

私：ソコミチは知っている。彼があなたを助けるのは病人の婦人のためだ。私は、あなたを助ける。病人のために。だから、ソコミチは、あなたに300シルをあげるのだ。また、この300シルは病人のためだ。

エオイ：たしかにおまえは病人を助けた。だが、今、私がお願いしているのは他の人々のためだ。

私：私は、あなたの問題を理解した。だから、あなたに300シル与えるのだ。おまえ（あなた）は問題をもっている。しかし、私も同じ問題を持っている。だから、ソコミチはあなたを400シルで助けようとしている。

エオイ：言ってくれ、なにがソコミチを私のところに来ることを妨げているのか。彼は、私をこれまでたくさん助けてくれたじゃないか。

#### 【値切る/問題の共有】

私：400シルでよい。

エオイ：ソコミチは行くと言っている。ソコミチは近所の人を助けることができる。だって、私の父の妻たちがいる。いとこたちもいる。飢えの問題だ。家はこんなに人が多く、そのため、あなたに泣きついているのだ。550シルをくれ。

私：あなたは私に550シルを与えるように、正真正銘言った。では、私は、あなたに450シル正真正銘あげよう。

エオイ：なにも悪いことはない。私の家に悪いことが集中するのは悪霊のため。家畜は尽きてし

まった。

私：どうしたのか。

エオイ：誰かは病気になるし、難民は撃たれる、私はだれかを殴ってしまったし。

自分がひじょうにけちくさい人間だということがわかって嫌な感じがします。いまのナレーションは日本語でやっているのであわれな感じですが、実際はもっと強圧的です。日本語で強圧的にねだるということはできないようなのでこうなっているわけですが、彼らは「当然くれるだろう」という形でやっています。これでざっとみますとエオイさんが何をいっているのかというと「私の問題だけ考えろ」と言っているわけです。それにたいして私は「たくさん人がいるじゃないか。その人たちのことも考えなければいけない」といっているわけです。もうひとつは「お母さんの病気だけでなく家族全員いろいろ問題があるんだ、それをお願いするよ」といっているわけです。これを全依存の姿勢といっていますが。

あと、いまここでの問題は、以前に私があげたり援助したりといったことではないわけです。それがいまの問題に何の関係もないわけですから。「今ここで」の問題をどうにかしろ、と迫ってくるわけです。友人じゃないか、だからこれまでも助けてくれたし、また助けてくれてあたりまえじゃないか、というわけです。それにたいして私の対応は第三者的な立場にたったり、問題をすごく限定するわけです。しかもお金も限定します。そして用途を明確化させます。そして、このあいだ助けたじゃないか、ということを強調します。さらに、ほかの人のところへ行って自分でなんとかしろ、と言う。これは要するに自分自身を彼にとって one of them にしているわけです。つまり自助努力、おれはおまえのことを構わんということです。

結局こういうすれ違いがあるというなかでおこなっているのですが、ねだりがどういふことであるかについて、ひとつのポイントはエオイさんが最後に言ったことばにあると思います。エオイさんはいろいろな問題がこんなにあるんだ、ということをお話していましたが、これは要するに問題を共有するプロセスなわけです。発砲事件や人を殴ってしまった、といったことは、彼はお酒を飲むと暴れるのでこういったことを起こしやすいのですが、案の定、こういうねだりの相談があったあ

と、この二つの問題がまたぼくのところに持ち込まれることになります。あんたが知っているとおろ、おれは人を殴ってしまった、というわけです。このとき、エオイさんがこういう問題をもっているということは、すでにぼくも知っていたわけです。なぜならみんながしゃべっていますから。彼は改めてそれをもってきて、ぼくと彼の問題にしようとしているわけです。

### プロセスとしてのねだり

ねだりというのは一見、必要だから欲しいからおこなっている、というかたちで見られるわけですが、つまり個人がある要求や必要性をもっている、という考えがあるわけです。しかしねだりというのはひとつのプロセスなわけです。そしてそこででてくる、彼がなにをどれだけ必要としているのか、ということはそのプロセスのなかででてくるもので、あらかじめ欲求や必要性がそこにあるということではないわけです。しかもトゥルカナの場合ですと、ねだりは問題を自分で解決するのではなくて相手をかかわらせて交渉によって解決をする、そして持続させるということが重要なわけです。

われわれは彼らという全額を払う必要はぜんぜんないのですが、彼らの問題に関心をもって、自分が持続的にかかわる、ということをつきあいのなかで表明していくわけです。その結果として病院代を支払ったり、ということがおこなわれるわけです。

私は占いや病気対処を調査していますが、そこであがってくるデータというのは今いったようなねだり・ねだられるという関係のなかでできているということ、考えるのが大事なのだと考えています。

### ねだり対策

最初に対策について述べるといいましたが、あまりたいしたことはないのですがいくつか挙げておきます。「面識がない」というのは大きなポイントで、知らない人がきたときには、まず「おれはおまえのことを知らん」といって最初をたたくわけです。本当は関係があるわけです。私は知り合

いの知り合いなわけですから。まずそのことを話すのに30分ぐらいかかります。そのあいだねだりがとまるわけです。急にねだってくる相手には「いいですか、ねだりをするときには私はこういうものです、とまずあいさつをしろ」と教えるわけです。あと、相手をすばやく弁別する。あげるべき相手という人がいるわけです。自分に近い人、また、気の弱い人には強く出る、というのは日本でも同じです。また時間が勝負です。いろいろなことを知りたいので結果としてそうなるわけです。向こうは今すぐここでくれというわけです。でもそのときに交渉が決裂して、あげなくても、たいしたことは起こりません。

また低い条件設定というのもあります。さらにこれは一種けつをまくっちゃったということですが、考えてみれば彼らは私がそこにいなくても、ずっとやってきた人たちなわけです。もちろんいろんな緊急事態があるわけですが、たいていのことはやってきた人たちで、私よりもっとしたたかで太い人たちなわけです。そのことを忘れてはいけません。彼らと話していると「いま助けなくちゃ」と「いま病院につれていかなけりゃ」と思うわけですが、ふと思いつくと「そんなことはないな、去年も同じ場面があったな」と思うわけです。

結果的にさきほどいったねだりはどうなっているか、というと、支出が4630シリングでねだりの方が1万2350シリングです。自分がお世話になっている家とその係類の人たちには2850シリングの要求で、だいたい90%ぐらい払っている。しかしそれ以外の人からの要求には9500シリングの要求で1900シリングしか払っていない。これは意図的にやっているという面もありますが、やはり関係性をはっきりさせるということは無意識のうちにやっているのではないかと、思いました。

とかく調査をやっていると、こういうつもりでこういう風になった、という紋切り型のことばでプロセスを省略してしまうのですが、それがでてくるプロセスを見るのがフィールドワークの大事なことのひとつで、それは自分自身と対面することとつよく結びついていることだ、と思います。

以上、おわります。

(さくみち・しんすけ/弘前大学)